



## 「プラスチックフリー・量り売り」の店 エコストア パパラギ

“海を救え!プロジェクト” プラスチックさん

さようなら、過剰包装さんさようなら!の実践

プロダイバー  
環境活動家

たけもと まさひろ  
武本 匡弘

私はプロダイバーとして30数年間、海を職場とし、海と向き合ってきました。

地球上には、見事な透明度の海や、色とりどりのサンゴが広がる海がある反面、海洋汚染や、気候変動などの影響により、確実に死に向かっている海のほうが多いという現実があります。40年ほど前、沖縄で見た水中にびっしりと広がる造礁サンゴの姿は、今ではもう見る事ができませんし、環太平洋の各地で見られた海中風景は、ここ20年間ほどで劇的な変容を見せています。

そのような現実を前にして1998年に特定非営利活動促進法(NPO法)が成立した直後に、いくつかの環境NPO法人を立ち上げ、今日まで継続してきました。

ここで紹介する「プラスチックフリー・ゼロウェイスト」をコンセプトにしたエコストアの実践もそれらの活動の一つであり、いわば延長線でもあります。現在このストアは開業して4か月目をむかえました。(2019年8月の時点にて)

この事業を始めるいきさつや、現在の状況、課題などを報告したいと思います。



### ① 太平洋航海

これまでの水中世界での仕事は、国内外さまざまな海域がありますが、潜水という仕事はあくまでも沿岸海域でのみ可能です。

変わりゆく海の姿を見て、「太平洋のもっと遠くのほうは一体どうなっているのだろうか?」と気になりだし、5年前から「太平洋帆船航海プロジェクト」という活動を開始しました。

それは、自ら操船する帆船(ヨット)で太平洋を航海し、洋上での気候変動の兆候に関する探査や、ミクロネシアの島々を訪ねる巡航の旅でした。

5年間での航海距離は、23,000km、

航海日数は延べ180日間にも及びます。

科学的なものでも学術的調査なわけでもなく、極めて個人的活動ではありますが、ヨットでの旅は、気候変動による海・空・風の変化がただならない、ということを感じさせてくれます。

特に海水温の高さ、巨大積乱雲の発生による豪雨、複数の洋上竜巻の発生など、局地的な変化は激しく、訪問する各国々、島々の人達も過去に経験したことがない、というような規模のものさえありました。

### ② 太平洋はごみだらけ!

しかし、航海中一番驚いたのは、プラスチックをはじめとする漁具やペッ

トボトルなどの漂流ごみを航海中の洋上で毎日目にしたことです。

例えば、小笠原諸島父島を出てビキニ環礁のある中部太平洋マーシャル諸島を目指したときの事です。

途中に島などありませんので、無寄港で16日間の風まかせの航海です。商業航路ではないので他船に会うこともなければ、陸がないので鳥も飛んでいません。

しかし、一日中ごみだけは目にするので。

広い太平洋の真ん中で、ペットボトルが浮いていたり、漁業用の浮き球などと頻りにすれ違い、夜間航行中にはそれらが船体に当たる音が恐怖すら覚えたものでした。

正に「太平洋はごみだらけ!」だったのです。

あきらかに日本からのプラスチックごみというものもあります。

瀬戸内海のどの海岸でも大量に目にする長さ20cmほどのプラスチックパイプ。牡蠣の養殖いかだに使われている「豆管」と呼ばれるものが打ちあがった姿です。これは広島県下の養殖筏からだけでも年間9,000万本も流出しているといわれています<sup>1)</sup>。

私の住む神奈川県葉山町でも、また伊豆諸島の各海岸でも普通に見ることが出来るのですが、父島の浜にも大量に見られ、グアム島でもそれと認識できる形で見られました。

またそれらしきプラスチック片は、ミクロネシアのどの島でも見られました。

そしてペットボトルをはじめ、プラ



写真1 パラオ・ペリリュー島のビーチ。プラスチックごみが砂中深くまで堆積しています

スチック製のさまざまな商品、色とりどりのキャップ等のごみは、どこのビーチに行っても必ず大量に見られるのです。

陸での生活で普段使っているものが、海を漂流し、国内はもとより他の国々、島々の海岸に堆積しているという事実を、いったいどれだけの人が気づき、目にすることがあるでしょうか?

この状況は、消費システムや生活スタイル等を変えていかなければ、地球規模での自然環境は、ますます悪化の一方だ、という強い危機感を与えられた航海となりました。

そして、何より自分自身が、レジ袋やペットボトルのような使い捨て商品等を、とても使う気にならなくなりました(嫌気がさした!ともいえます)。

### ③ 生活者からの気づき

毎回、航海から帰って来るたび、私が主宰するNPOや関連団体等の主催で報告会等を行っていました。しかし、この1~2年、海洋プラスチック問題がメディアで頻りに取り上げられはじめてから生協関係、各消費者団体などからの依頼が増えはじめ、各地での講演会や学習会等と呼ばれ、報告をする機会が急に増えだしたのです。

そして、主催者をはじめ、そこで出会い知り合った方々の熱心な姿、普段

の活動の様子などを知るにつけ、「社会を変えていく人達は生活者の人達ではないか?」と思いはじめました。

情報が入って来る限り、できるだけ多くのシンポジウム、学習会等に受講者として足を運び、必死に情報収集と勉強等を重ねました。そのような経緯の中で、自分のこれまでの環境活動はあくまでもフィールドであり、海を通して自然の素晴らしさ、大切さを体感してもらうことに努力をしてきましたが、それだけではとても追いつかないと感じはじめました。

つまり、この問題は深刻であり、根が深く、時間がかかり、また大きな壁があるということにも気がつきはじめたのです。

もうこうなったら、行動するしかない!と欧米で大きな動きになっている活動や、多くのエコストアの新しいスタイルなどにヒントを得て、行動を開始しました。



写真2 エコストア ババラギの外観。  
東海道線藤沢駅より5分

#### 4 開業

開業したエコショップ、商品構成や仕入れ等のほとんどは妻が担当、「使い捨て包装や、プラスチック製品を使

わない用品だけで、どこまで生活できるのか?」というテーマでそろえた商品が、現在では130種を超え、店内一杯に並んでいます。

- ・レジ袋もなければ包装もしない。
- ・食品も洗剤類もすべて「量り売り」で販売し、過剰包装商品を販売しない。
- ・洗剤、石鹼などは海に優しい生分解をするもの。
- ・プラスチックで作らなくても作れるもの、竹や木製など昔からあったものでそろえる。
- ・食品類はすべて無農薬・無化学肥料のもの・除草剤散布は一切なしの野菜、米など。

以上のようなコンセプトでスタートしました。当初戸惑う来店者も少なくありませんでしたが、4か月を迎える現在では定着しはじめたと感じています。

開店以来、人気商品の筆頭は、布と蜜蝋、自然オイルで作った自然素材のエコラップ!(写真3)

使い捨ての象徴だったようなラップを使っての罪悪感から解放されます。食器洗い用のセルローススポンジや、竹繊維で作られたイギリス製のコーヒークップなども人気です。



写真3 沖縄デザイン柄のエコラップが大人気!

ネットやメディア等で知り、遠方からの方もほぼ毎日のように来店されます。都内をはじめ、遠くは北海道から沖縄まで、他府県からの来店者も少なくありません。同じような形態で開業したいという方々も遠方から来店されるので、相談にのっています。

お馴染みのお客さんは、容器を持参してくれます。いつの間にか、過剰包装とともに無駄に多く買わされていることに気がつけば、こっちのほうが良いとなり量り売りも定着しつつあります。また、店内に人が入りきれないほど賑わう日も増えてきたのはうれしい限りです。

#### 5 給水スポット

大学の授業などでペットボトルの話をするほとんどの学生は「リサイクルしているから環境に良い、と思ってた。」と言います。

無料給水スポットの普及は、こういった認識への啓蒙も含めて良い機会と思っています。

ちなみに、開業しての最初の利用者は通学途中の高校生達でした。

店内の水道に取りつけた浄水器は、複数のメーカー品を扱う販売会社へ研修に向いて厳選し、60種以上の有害物質を除去する高性能のものを取りつけてあります。当然、内部のカートリッジは交換後リサイクルしているということをメーカーに確認し、浄水器そのものの販売も行っているのですが、予想を超えての需要があります。



写真4 給水スポットのお知らせシール

#### 6 フィールド

店内での告知やHP、FBでの公開募集で行っている太平洋探査船の乗船会では、東京湾~相模湾の洋上でプランクトンネットを使ってのマイクロプラスチック採取を体験してもらっています。

採取したプランクトンをマイクロスコープと大型モニターを使って観察すると、歓声上がるほどのインパクトがあります。特に東京湾では、2050年(プラスチックの量が魚を上回ると予想されている年)どころか、今すでにプラスチック片らしきごみのほうが生物より多く見られ、海洋プラスチック問題の深刻さを認識することができます。

#### 7 海外からの目

来客者の中で特徴的なことが一つあります。

それは、海外からの帰国者、留学から帰国してきた若年者の遠方からの来店です。彼らが口をそろえていうことは「エコ」という観点から、海外から帰って来ると日本はまるで石器時代のような」とのこと。「BULK STORE(量り売り店) Zero Wasteなどは、欧米で



は街角で普通に見られる]、「レジ袋が無料な国などない」等々、そういった疑問から行動を始めた若い人達は、確実に増えていると感じています。

現在、そういった体験をした帰国者の中の1人が起ち上げた「Naked Market 裸売り市場」への出店を誘われ、毎月渋谷（青山）の国連大学の敷地で開催される催しの際に「出店販売」を行っています。正に、同じ志をもった若者たちが国内各地（中にはフランスからの出店者もあり）から集まり、交流をしながらの実践販売（マーケット）には大きな可能性が秘められています。ちなみにこの会場での最年長者はいつも私です。エコストア パバラギに頻繁に来店する若い帰国者達は、石器時代(?)の日本において、将来へのパイオニアになるのかもしれない！

### ⑧ ストアでのセミナーなど

モニター、スクリーン等を使つての店内特設スペースは30人分の座席を確保。映画上映、講演会、セミナー等を頻繁に行っています。

開業しての約4か月弱の期間でこれらイベントへの参加者数は延べ350人を超えました。

私自身が担当している気候変動・海洋プラスチック問題をテーマにした「海から見る地球」というセミナーは毎回予約の段階で満席になるほどの盛況ぶりです。人々の関心の強さが伺われます。このセミナーでは時間の半分を参加者の発言の時間として設け、意見交換の機会を大事にしています。夏休

みの研究課題として小中学生から高校生の参加者もあり、10歳から70歳代までの年齢の幅があります。最近、子供達の口から「海洋プラスチック」という言葉を聞かれることが多くなっていると感じています。連れてくる保護者の方々はこの期間に顧客化したお客さんです。

子供が関心をもちはじめたことに対しきちんと話ができて、より興味が増してくるような気づきを与えることは、大人の大事な責任です。

私の個人的なゴールとして、この店が単なる「エコストア」で終わらず、情報発信や意見交換の場として存在したい、また「共に育つ」「共育」の場にもしたいということもあり、将来に向けての手応えを感じています。



写真5 セミナー中の様子。「海から見る地球」のセミナーは月2回の開催で毎回満員の盛況ぶり

### ⑨ 課題

何より、このような形態では日本で最初の店！（おそらく）ということでの自覚と責任があると認識し、商品の質やスタッフの資質はもとより本人達の実践、基本思想にぶれを生じてはなりません。

いわゆる“自然食品店、オーガニック商品専門店”のようなものは街でも見かけます。しかし、それらのほとんどは野菜をはじめ、包装菓子類など、過剰包装にまみれている、といっても過言ではありません。

「人の健康にさえ良ければ、地球環境はどうでも良いのか！」といったくなるほど。しかし、小売業を始めると、品ぞろえに相当な制限が生じることがわかり、収益構造が大きく変わってきます。自然食品店でかなりの割合を占めている菓子類は、ほとんど販売できません。また、「裸売り」の野菜の鮮度を保つには苦勞を強いられています。

それらの課題に対して、広く声を掛け合い、情報収集とともに、プラスチック容器に代わる容器や新素材の包装用品などの開発に挑んでいるのですが、これに一番苦戦をしています。

私自身、長い期間市民運動や環境活動などを行ってきました。環境に負荷をかけない消費スタイルへの提案や、実践等に対してまるで興味を示さない人は、この国において、相変わらず少なくはありません。だからといって“口角泡を飛ばして”訴えるのも考えものです。地球規模での環境悪化の要因は決して一つではなく、複合的なことが積み重なって起きておりますが、人の

関心のもち方も同じようにさまざまです。人々が「当たり前」と思っていたことが「実は問題がある」ということに気づいてもらうことはそう簡単ではないということです。

私の持論でもありますが、環境問題に関しては既に活動をしている人たちはもとより、これまで関心のなかった人に、どう？気づきの機会を提供できるか？ということ、多面的なアプローチが重要だと思っています。エコストア パバラギがそういう意味でも情報提供の意味をなす場になればと願っています。

最後に、この形態のストアが全国に広がっていくようなことでなければ意味がありません。そのためには、まずきちんと収益を上げ継続していくこと、そしてその基本手順などを、同じ志をもって挑みたい、起業したい！という人に伝えていかなければなりません。

現況では、まだ4か月ですから赤字にはなりえず、初期投資回収のめども立っていません。しかし、適切な維持費、有給スタッフの人数、売り場面積や商品構成等を試算して慎重に事業計画を立てて挑めば、何とか継続していけるという手応えをもっています。

何より多くの人々の応援があることが一番の希望です。

「エコストア パバラギ」は藤沢駅南口徒歩4分、神奈川県藤沢市鶴沼石上1-3-6  
TEL: 0466-50-0117 10時~19時 水曜定休  
HP・FB は「エコストア パバラギ」で検索してください

#### 参考文献

1) 藤村繁: 瀬戸内海に漂着するカキ養殖用パイプ類の実態, 日本水産学会誌, 第77巻, 第1号, pp.23-30 (2011)